⑶ 特　設　展　示

①　田中冬二展　なつかしい日本の風景

期　間　平成27年４月25日（土）～６月21日（日）

趣　旨　田中冬二の詩には、なつかしい日本の風景や人々の暮らしの記憶が、やさしく清澄な言葉でうたわれている。銀行員として島根・大阪・長野・郡山・東京など各地に勤務しながら詩作を続け、第一詩集『青い夜道』以降、生涯18冊の詩集を刊行し、句集・随筆集・詩文集にも多くの著書がある。
山梨は長野とならんで「好きな県」のひとつ。早川町の奈良田、富士北麓、八ヶ岳南麓、甲府などを訪れ、「河口村」「本栖村」「塩川の谿」「山郷」「甲府にて」「富士ビューホテル」など数多くの詩を残している。
冬二直筆の原稿・草稿、ノート、書画、書簡などと共に、その作品の魅力を紹介する。

展　示　資　料　一　覧

Ⅰ　生いたち　ふるさと富山への郷愁

田中冬二「年譜」草稿
田中冬二「ふるさとびと」草稿
吉江喬松（たかまつ）『高原』1909（明治42）年11月　如山堂書店（冬二旧蔵書）
「文章世界」第６巻第８号　1911（明治44）年６月（「山の湯より」掲載）
「文章世界」第７巻第３号　1912（明治45）年２月（「旅にて」掲載）
「文章世界」第７巻第４号　1915（明治45）年３月（「山の家にて」掲載）
田中冬二詩「挽歌」一枚物（「故園の牡丹」の題で『葡萄の女』収録）

Ⅱ　詩人としての出発　第一詩集『青い夜道』

田中冬二『青い夜道』1929（昭和４）年12月　第一書房
田中冬二　詩「くずの花」色紙（『青い夜道』収録）
田中冬二　詩ノート10（「アメリカ村」「くずの花」「山へ来て」「根原村」などの草稿）
田中冬二　詩ノート16（「木枯」「洋燈」「春」「障子」などの草稿）
田中冬二　詩「春」一枚物（『青い夜道』収録）
田中冬二　詩「秋の匂ひ」一枚物（『青い夜道』収録）
田中冬二　詩「田沢温泉」軸装（『青い夜道』収録）
「アララギ」第８巻第７号　1915（大正４）年７月（「春の日」３首掲載）
「詩聖」第７号　1922（大正11）年４月（「蚊帳」掲載）
「パンテオン」創刊号　1928（昭和３）年４月
「パンテオン」第２号　1928（昭和３）年５月
「パンテオン」第６号　1928（昭和３）年９月
長谷川巳之吉　田中冬二宛書簡　1928（昭和２）年８月　日不明
田中冬二　詩「山の水」色紙（『青い夜道』所収）
「オルフェオン」創刊号　1929（昭和４）年４月
「オルフェオン」第３号　1929（昭和４）年６月
田中冬二　詩「大根礼讃」草稿（『青い夜道』所収）
「オルフェオン」第６号　1929（昭和４）年４月
堀口大學訳『フランシス・ジヤム詩抄』1928（昭和３）年６月　第一書房（冬二旧蔵書　長谷川巳之吉からの献辞入り）
田中冬二「『青い夜道』の頃」草稿
野口米次郎（よねじろう）「『青い夜道』を読む」原稿（「オルフェオン」第９号（終刊号）掲載）
長谷川巳之吉　田中冬二宛書簡　1930（昭和５）年２月５日
北原白秋　田中冬二宛葉書　1930（昭和５）年１月29日（『青い夜道』礼状）
佐藤惣之助（そうのすけ）　田中冬二宛葉書　1929（昭和４）年12月23日（『青い夜道』礼状）

Ⅲ　冬二の詩の風景　めぐる季節とともに

松井知時・上田駿一郎共著『新和仏辞典』1918（大正７）年３月　大倉書店（冬二旧蔵本：堀口大學献辞入）
柳川勝二著『模範仏和大辞典』1936（昭和11）年３月　白水社（冬二旧蔵本・堀口大學献辞入）
堀口大學訳『月下の一群』1925（大正14）年９月　第一書房 （冬二旧蔵本）
田中冬二「ゆずの花、牡丹鍋、クリスマス・ローズ」草稿
堀口大學　田中冬二宛書簡　1967（昭和42）年９月14日
田中冬二『海の見える石段』1930（昭和５）年12月　第一書房
田中冬二　詩「霙さくら忍冬の花」一枚物（『海の見える石段』収録）
田中冬二『山鳴』1935（昭和10）年７月　第一書房
田中冬二　詩「冬日薄暮」草稿（『山鳴』収録）
「月刊文章」第２巻第４号　1936（昭和11）年４月（堀口大學「銃口」掲載）
田中冬二「故園の莢」折帖（関口昭良氏宛献辞入り）（『山鳴』収録）
田中冬二『花冷え』1936（昭和11）年７月　昭森社
田中冬二『故園の歌』1940（昭和15）年７月　アオイ書房
田中冬二　詩「日本の秋の夜」草稿（『故園の歌』収録）
田中冬二『橡の黄葉』1943（昭和18）年１月　臼井書房
高村光太郎　田中冬二宛葉書　1943（昭和18）年２月５日
田中冬二　詩「石臼の歌」一枚物（『橡の黄葉』収録）
田中冬二　自筆詩・句集（1941（昭和16）年用の日記使用）
田中冬二『菽麦集』1944（昭和19）年７月　湯川弘文社
田中冬二『山の祭』1947（昭和22）年４月　笛発行所
田中冬二　詩「笛の音」軸装（『山の祭』収録）
田中冬二『春愁』1947（昭和22）年５月　岩谷書店
田中冬二『山國詩抄』1947（昭和22）年６月　青園荘私家版
田中冬二『三国峠の大蝋燭を偸まうとする』1947（昭和22）年７月　岩谷書店
田中冬二　詩「翡翠」軸装
田中冬二『晩春の日に』1961（昭和36）年11月　昭森社（大木実宛献辞入）
田中冬二　詩「林檎の花の下にて」草稿（『晩春の日に』収録）
田中冬二　詩「山麓遅日」軸装　詩集未収録
田中冬二　詩「釜無の古宿」柱掛（『晩春の日に』収録）刻・五百旗頭欣一
田中冬二　詩「山麓遅日」草稿　詩集未収録
田中冬二『牡丹の寺』1964（昭和39）年５月　青園社〈非売品〉
田中冬二　詩「卯の花垣に」軸装
田中冬二『葡萄の女』1966（昭和41）年12月　昭森社
田中冬二　詩「新雪」色紙（『葡萄の女』収録）
三島由紀夫　田中冬二宛葉書　1967（昭和42）年４月９日（『葡萄の女』礼状）
田中冬二『失われた簪』1972（昭和47）年３月　中央公論社
田中冬二『石臼の歌』1972（昭和47）年８月　一柿木版社
田中冬二『サングラスの燕村』1976（昭和51）年11月　中央公論社
田中冬二「サングラスの燕村―詩人のノート―」ノート
田中冬二『織女』1978（昭和58）年12月　潮流社
田中冬二「あとがき」草稿（『織女』あとがき）
田中冬二『八十八夜』1979（昭和54）年３月　しなの豆本の会
田中冬二　詩ノート１７　1972（昭和47）年３月24日～1979年１月27日

■　冬二が関わった雑誌

「セルパン」第33号　1933（昭和８）年11月
「文藝汎論」第12巻第10号　1942（昭和17）年10月
「詩学」第６巻第１号　1951（昭和26）年１月
「至上律」第11号　1952（昭和27）年６月
「花粉」第３号　1958（昭和33）年１月

「四季」第57号　1941（昭和16）年５月
第4次「四季」復刊１号　1967（昭和42）年12月
田中冬二「編集後記」草稿（第４次「四季」復刊１号掲載）
「アルプ」第178号　1972（昭和47）年12月
田中冬二「春播の種子のように」草稿（「アルプ」第178号掲載、『牡丹の寺』所収）

Ⅳ　冬二が歩いた山梨　湖水と山村と

田中冬二　詩ノート６（「河口村」草稿ほか）
田中冬二　詩「本栖村」色紙（『青い夜道』所収）
田中冬二「富士山麓」草稿
田中冬二　詩ノート（1935年４月　増富旅行記ほか）
田中冬二『高原と峠をゆく』1955（昭和30）年６月　中央公論社
田中冬二『妻科の家』1970（昭和45）年７月　東京文献センター
田中冬二「山郷二景」草稿（串田孫一編『忘れえぬ山』収録）
田中冬二　詩ノート６（1955年の増富・奈良田の旅の記述ほか）
田中冬二「木賊という村」草稿
田中冬二　詩ノート５（「山郷」ほか）
田中冬二　詩「山郷」草稿（『故園の歌』収録）
「文藝汎論」第７巻第１号　1937（昭和12）年１月
田中冬二『奈良田のほととぎす』1973（昭和48）年７月　ギャラリー吾八
田中冬二　深沢正志宛書簡　1964（昭和39）年４月９日
田中冬二　深沢正志宛書簡　1964（昭和39）年７月23日
田中冬二　詩「池鯉鮒の女」色紙（『葡萄の女』収録）（深沢正志贈呈のもの）
田中冬二　詩「清水が湧いている」色紙（深沢正志贈呈のもの）
民謡奈良田追分と生活詩山郷　リーフレット
田中冬二　詩「富士ビューホテル」一枚物（『葡萄の女』収録形と異同あり）
長谷川巳之吉　田中冬二宛葉書　1943（昭和18）年７月23日消印
堀口大學　田中冬二宛葉書　1943（昭和18）年７月28、29日
長谷川巳之吉　田中冬二宛書簡　1943（昭和18）年７月29日
田中冬二　詩ノート１（1958～1959年頃の詩の草稿。詩「富士ビューホテル」ほか）

Ⅴ　俳人冬二の世界　俳句は珠玉のようなもの

田中冬二「清水を祇園へ下る菊の雨」軸装　麦ほこり』収録。
田中冬二　句帖　1964（昭和39）年１月18日～1966年５月20日の記録
田中冬二　句帖　1953（昭和28）年１月15日～1954年10月28日の記録
「風流陣」第28冊　1938（昭和13）年６月
「文藝汎論」第５巻第７号　1935（昭和10）年７月（「麦ほこり」７句掲載）
「青芝」第13号　1954（昭和29）年９月
田中冬二『行人』1946（昭和21）年８月　ちまた書房
田中冬二「昨夜よりの雨やみ麦を刈るばかり」短冊
田中冬二『麦ほこり』1964（昭和39）年11月　大雅洞
田中冬二『若葉雨』1973（昭和48）年４月　青園荘
田中冬二『春愁』1976（昭和51）年　河伯洞私刊
田中冬二「手摺本に春雨けむる山里と」色紙
田中冬二「鮒の鮓漬けて近江は梅雨に入る」色紙
田中冬二「サングラスかけて薄暑の軽井沢」短冊
田中冬二「白き手に外套託し軽き疲れ」短冊
『田中冬二句集』１980（昭和55）年６月　鹿鳴荘
田中冬二「麦ほこり抄」折帖　1955（昭和30）年11月（巻尾に八幡城太郎一句、山本つぼみへの献辞を冬二が記す）
田中冬二「鮒鮓 ―蕪村に関しての小私見」草稿（『奈良田のほととぎす』収録）

■　冬二と山梨の詩人

一瀬稔『忘れ得ぬ人』1986（昭和61）年11月　甲陽書房
「中部文学」第14・15輯合併号　1944（昭和19）年１月（一瀬稔「湖あかりの町」掲載）
一瀬稔『忘れ得ぬ人』1986（昭和61）年11月　甲陽書房（「湖あかりの町」「田中冬二と信州」収録）
堀内幸枝『村のアルバム』1957（昭和32）年11月　的場書房（冬二旧蔵書・献辞入り）
「アルプ」第269号　1980（昭和55）年７月（堀内幸枝「田中冬二先生の思い出」掲載）
『サングラスの燕村』出版を祝う会　寄せ書き（大木実、堀内幸枝、杉山平一、神保光太郎、新川和江、安西均ら29名）

■　愛用品

田中冬二愛用品　万年筆（モンブラン・パイロット製）・懐中時計・眼鏡
「田中吉之助」表札　２点
田中冬二使用　落款印
高村光太郎賞　賞牌　1962年

■　追悼・顕彰

「青芝」第319号　1980（昭和55）年６月（冬二追悼号）
「葡萄」第41号　1980（昭和55）年11月（冬二追悼号）
「オルフェ」第52号　1980（昭和55）年９月（冬二追悼号）
「田中冬二研究」第１～５号　1982（昭和57）年２月～1984年６月　山鳴の会発行
空木春生『啄木鳥雑記』１976（昭和51）年　私家版
和田利夫『郷愁の詩人　田中冬二』１991（平成３）年11月　筑摩書房
堀内助三郎『冬二の風景』１998（平成10）年８月　宝文館出版
「田中冬二研究」第１～５号　1982（昭和57）年２月～1984（昭和59）年６月　編集・発行　山鳴の会（磯村英樹・畠中哲夫・深澤忠孝・堀内幸枝）
森田睦作「凍原」（自作に冬二の詩「雪国」を添える）

②　芥川龍之介の夏休み

期　間　平成27年７月11日（土）～８月23日（日）

趣　旨　芥川龍之介（1892～1927）は、どんな夏休みを過ごしたのでしょうか。残された写真や作品から、家の中で勉強や読書に専念しているようなイメージを持たれがちですが、実際は小学生の時に毎日水泳をし、中学校時代には友人と旅行に出かける健康で快活な少年でした。自筆の日記や愛用品によって、少年時代のエピソードをわかりやすく紹介します。

展　示　資　料　一　覧

芥川「暑中休暇中の日記」1904（明治37）年７月21日～８月31日
芥川の水泳帽子
芥川「夜行之記」
「木兎」第２号　1906（明治39）年８月16日　流星社
「碧潮」第３号　1908（明治41）年２月28日　碧潮社
芥川「魔法島」原稿
芥川　手書きの朝鮮半島地図
芥川「とうもろこし」
芥川「亀」スケッチ
芥川「雪」作文原稿
芥川「日誌」
芥川　水彩画
芥川　大学ノート
芥川「義仲論」原稿
「学友会雑誌」第15号　1910（明治43）年２月
芥川「槍ヶ岳紀行」ノート
芥川「槍ヶ岳に登つた記」
芥川「一高へ二人り三中から這入」
芥川　手帳
石田幹之助　井川恭宛葉書　1912（明治45）年７月９日
芥川「富士山」原稿
芥川「寒夜」原稿
芥川「菩提樹―三年の回顧」
井川恭「赤城のスケツチ」1913（大正２）年
芥川　手紙の草稿
井川恭「東京のスケツチ」1915（大正４）年
井川の手帳　1915（大正４）年
井川恭　画「裸形の芥川龍之介」
恒藤恭『旧友芥川龍之介』1949（昭和24）年８月　朝日新聞社
芥川と井川の俳句の草稿
芥川　井川恭宛書簡　1915（大正４）年８月25日
芥川「鼻」草稿
久米正雄「手品師」原稿
松岡譲「罪の彼方へ」（三幕）原稿
「新思潮」創刊号　1916（大正５）年２月
成瀬正一「罪」原稿
芥川「父」校正刷り
「新思潮」第１年第３号　1916（大正５）年５月
「新思潮」第１年第３号の正誤表
「新思潮」第１年第６号の表紙原案
「新思潮」第１年第６号　1916（大正５）年８月

「新思潮」委託販売伝票
夏目漱石　久米正雄・芥川龍之介宛書簡　1916（大正５）年８月21日
芥川龍之介・久米正雄　野口真造宛葉書　1916（大正５）年（推定）８月30日消印
松岡譲　芥川龍之介・久米正雄宛葉書　1916（大正５）年８月22日
芥川「水虎晩帰之図」
芥川「藤の花軒端の苔の老いにけり」軸装
「朝陽日報」第７号
Life and Literatureノート
芥川「或阿呆の一生」前書き原稿
芥川「或阿呆の一生」原稿

③　新収蔵品展　お宝そろいぶみ

期　間　平成28年１月23日（土）～３月21日（月･振休）

趣　旨　平成27年に新たに収蔵した資料を中心に展示します。
また、第23回やまなし文学賞小説部門入賞作が新聞掲載された際の挿絵原画を、あわせて展示します。

展　示　資　料　一　覧

高浜虚子　橋口五葉宛書簡　1905（明治38）年２月８日、1906（明治39）年７月26日
「ホトトギス」第８巻第６号　1905（明治38）年３月〈復刻〉、第９巻第10号　1906（明治39）年７月
鈴木三重吉　津田青楓宛書簡　1915（大正４）年６月28日
芥川龍之介　菅忠雄宛書簡　1917（大正６）年12月26日
芥川龍之介　小島政二郎宛葉書　1919（大正８）年５月19日、11月29日消印
芥川龍之介　小島政二郎宛書簡　1919（大正８）年10月27日
武田泰淳「勝負」原稿
村岡花子「解説」原稿　２種

山本周五郎「おさん」原稿
井伏鱒二「風貌姿勢」原稿
井伏鱒二　竹村書房五十澤宛葉書　1934（昭和９）年８月22日
井伏鱒二　竹村書房宛葉書　1936（昭和11）年10月21日
井伏鱒二『雞肋集』1936（昭和11）年11月　竹村書房
井伏鱒二　一瀬稔宛葉書　1948（昭和23）年１月４日
井伏鱒二　熊王徳平宛葉書　年不明１月18日
太宰治　竹村坦宛書簡　1940（昭和15）年４月頃
太宰治『皮膚と心』1940（昭和15）年４月　竹村書房
太宰治『女の決闘』1940（昭和15）年６月　河出書房
鈴木孝「丘の上の枯桑原に鳴る風のいく日吹きなば春や来向ふ」軸装
鈴木孝『丘のある街』1966（昭和41）年10月　甲陽書房
窪田空穂「「丘のある街」を読む（一）」原稿
「樹海」第150号　1966（昭和41）年12月
窪田空穂「さし出の磯にて　兄川にならぶ弟川ほそぼそと青山かひをながれてくだる」額装
窪田空穂「春の葉の青くしげりて添ひたれば濃べにの寒木瓜ますますあかし」軸装
窪田空穂　鈴木孝宛書簡　1954（昭和29）年10月12日、1955（昭和30）年10月12日
窪田空穂　鈴木孝宛葉書　1955（昭和30）年5月27日
「樹海」第12号　1955（昭和30）年６月
半田良平「椎茸の苗場ちかくまで降りしときほそたに川はおとに出でつる」軸装
半田良平　鈴木孝宛書簡　1934（昭和９）年10月20日
松村英一「たゝかひはをはりにしかばひむがしに面もちむけて兵たちならぶ」軸装
松村英一　鈴木孝宛書簡　1966（昭和41）年６月27日、1968（昭和43）年10月21日
植松壽樹「おく暗き木群よりいでゝほとばしる水をまたぎぬむらの口にて」軸装
植松壽樹「大菩薩峠　多摩川のみなかみ谿のはてはてを甲斐の山に登り見さけつるかも」ほか額装
岡晴耕　久保田正文宛書簡　1988（昭和63）年９月22日
「短歌現代」第11巻第４号　1987（昭和62）年４月
伊藤生更「北の方より駒鳳凰農鳥と我が目を移す雪の高山」軸装
野澤一「童子が見た…」色紙
堀内幸枝「赤いカンナ」原稿
堀内幸枝『不思議な時計』1956（昭和31）年１月　書肆ユリイカ
一瀬稔「秋日遍照」原稿
草野心平「不二　堅い暗いガランドウのなかでコールタールのうねりのたうち…」額装
前田晁「田山さんの『近代の小説』から」原稿
小野政方「天神森のこども」原稿
菊嶋家旧蔵近世書画貼交屏風　六曲一隻
菊嶋竹鵞「竹鵞句合」「俳諧桃の花巻」「俳諧初蝶巻」
榎並和春画「山峡」挿絵原画
くぼたつぎお画「縁故節現世考」挿絵原画
谷崎潤一郎　石井秀平宛書簡　1939（昭和14）年４月３日、1940（昭和15）年３月15日
坪内逍遙　石井秀平宛葉書　1934（昭和９）年４月25日、５月10日
坪内逍遙　石井秀平宛書簡　1934（昭和９）年11月27日消印
坪内逍遙　雨宮庸蔵・石井秀平宛書簡　1934（昭和９）年９月
徳永直　石井秀平宛書簡　年月不明20日
小林一三　石井秀平宛書簡　1942（昭和17）年４月28日、５月20日
幸田露伴筆『すゝき野』題字
谷崎潤一郎　鈴木三重吉宛書簡　1914（大正３）年９月30日
谷崎潤一郎　創元社金子達夫宛書簡　1944（昭和19）年７月７日
飯田蛇笏文学碑設計図
飯田蛇笏　高室呉龍宛書簡　1928（昭和３）年10月11日、1932（昭和７）年12月25日

「寒夜句三昧」句稿　1932（昭和７）年１月
高室呉龍『句集　惜春』原稿
高室呉龍『句集　惜春』（雲母叢書第30篇）1966（昭和41）年５月　雲母社
高橋忠弥画『楢山節考』カバー原画､原画案　1957（昭和32）年２月　中央公論社
高橋忠弥画『楢山節考』（中央公論文庫）カバー原画、原画案　1958（昭和33）年５月　中央公論社
深沢七郎『楢山節考』1957（昭和32）年２月　中央公論社
深沢七郎『楢山節考』（中央公論文庫）1958（昭和33）年５月　中央公論社
岡井隆『暮れてゆくバッハ』2015（平成27）年７月　書肆侃侃房
岡井隆『暮れてゆくバッハ』収録作品の草稿・原稿
堀口大學　長谷川巳之吉宛書簡　1944（昭和19）年９月27日、11月29日、1945年３月６日、年不明４月22日
前田普羅　柴田宵曲宛葉書　1921（大正10）年８月11日
「ホトトギス」第25巻第１号　1921（大正10）年10月
石原舟月「水ひかる二月真鴨は月の鳥」短冊
桂信子「ゆるやかにきてひとゝあふほたるの夜」短冊
福田甲子雄「ふるさとの土に溶けゆく花曇」色紙
大井雅人「少年の顔月光を得て消ゆる」短冊
雨宮雅子短歌原稿　1950（昭和25）年から1955年までの345首収録
雨宮雅子「春の雲」原稿
雨宮雅子　中城ふみ子に関するメモ
雨宮雅子短歌手帳　角川書店発行「短歌」2000（平成11）年１月号付録
『雨宮雅子作品集』口絵写真
辻邦生　学習院大学仏文科諸先生宛書簡　1980（昭和55）年12月５日
辻邦生　村松定史宛葉書　1980（昭和55）年月日不明、1984年８月20日、1985年４月13日
辻邦生　村松定史宛書簡　1982（昭和57）年９月29日
村松定史『夜の扉　プレヴェールと芭蕉』1985（昭和60）年11月　沖積舎